

令和5年度 環境で地域を元気にする  
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

## 成果共有会 発表資料

### 活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備”に取り組む	
昨年度から引き続き“環境整備”に取り組む	<input checked="" type="checkbox"/>

活動団体名：株式会社アースカラー

活動地域：岩手県北部・沿岸エリア

### 活動におけるテーマ

『岩手県北部・沿岸エリアにおける地域循環経済圏構築』

# 活動団体および活動地域の紹介

## 活動団体

企業名 株式会社アースカラー



EARTH  
COLLAR

事業内容 「過疎農山漁村の再生を通して、資本主義社会の修正モデルを創る」  
人材育成、過疎地での事業立ち上げ伴走支援、第一次産業～第三次産業まで過疎地の再生に資する事業は何でも手掛ける。人口約2,400人、岩手県最小の自治体、岩手県普代村に本社を構える。

URL <https://earthcollar.jp/>





# 地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

都市側

農山漁村側

岩手県北・沿岸エリア(旧南部藩) 地域循環経済圏



都市住民



地球のしごと大学



<都市x農山漁村 学びのコミュニティ>  
 ・地球のしごと図鑑の仕事見学ツアー  
 ・各種オンライン、体験講座開催  
 ・人材のプール、コミュニティ

外貨を稼ぎ、地域で循環させる



- 物販定期便(福袋サブスク)
- 観光消費
- 特定目的ふるさと納税
- 地球のしごと村づくり学習ゲームアプリ



七福神

加盟事業者 150者以上

地域通貨による  
ベーシックインカム



小中学校  
事業者x教科学習  
体験コンテンツ

地球のしごと図鑑



疎開保険

ADDRESS

DMO  
(宿泊連携)

採用  
移住・  
起業促進

循環農家

自伐型林業

水産加工

地域電力小売

ガストロノ  
ミー料理人

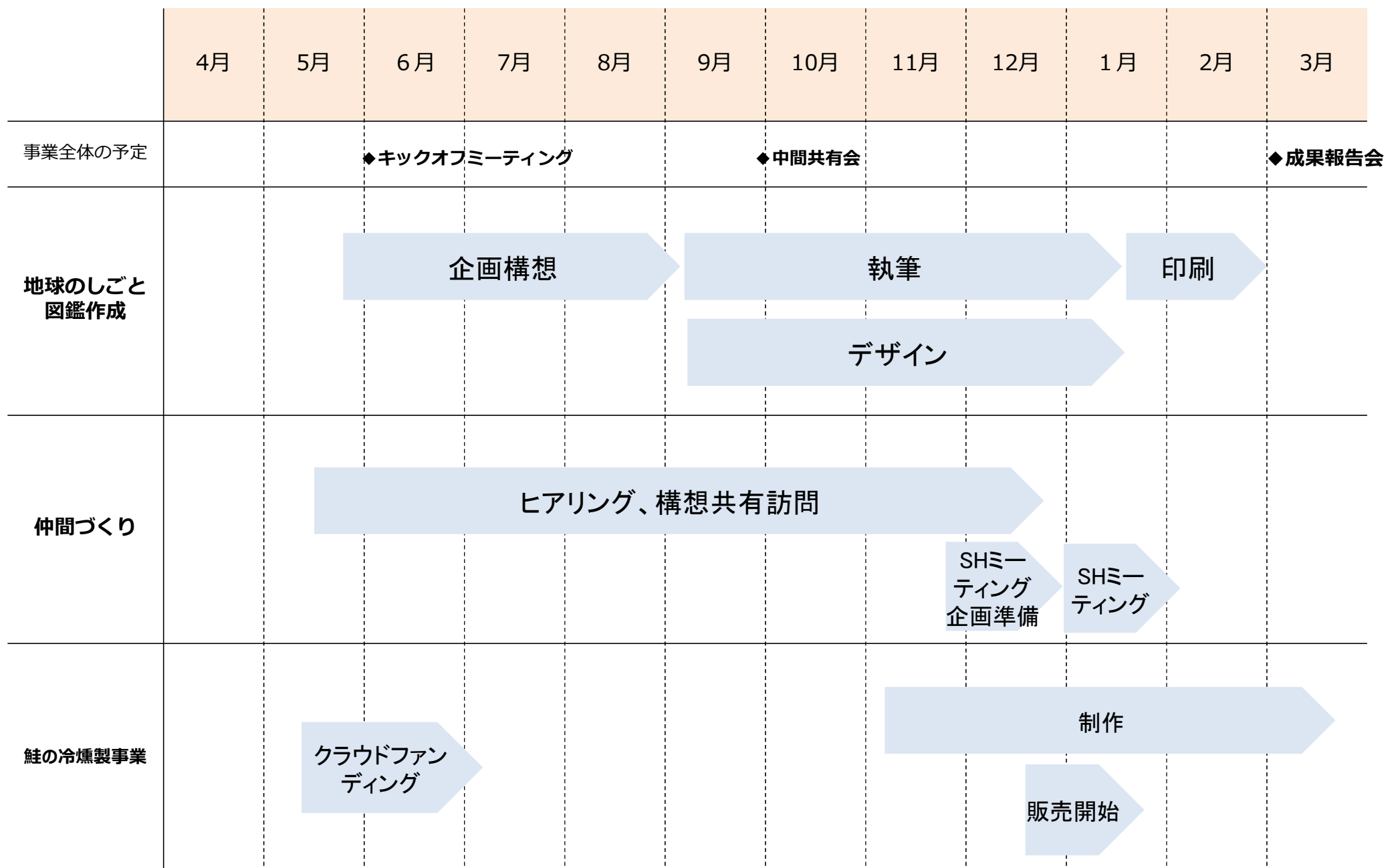
猟師

自然素材アパ  
レル職人

森のようちえ  
ん保育士

etc...

# 年間スケジュール



# 今年度チャレンジした主な取組内容

## 取組①「地球のしごと図鑑作成」

### 【活動内容】

農山漁村が持続するために、地域循環を意識した仕事群を集めて解説とともに冊子化。まさに地域循環共生圏に飛び込んで仕事をしたいという人向けのキャリアガイドブックとなるよう意識。

### 【成果や気づき】

まずは1stバージョンを作成。まだまだ仕事モデルの数があるので（最大50）、今後書籍化していきたい。

### 【活動の様子（写真など）】



## 取組②「引き続き仲間づくり」

### 【活動内容】

地域のプレイヤー・関係者に個別訪問し、ステークホルダーミーティングへ招待。ステークホルダーミーティングをミニイベント化して実施した。

### 【成果や気づき】

地域通貨のワークショップやカーボンオフセットのミニ講演を追加し、長丁場だが、参加したくなる仕掛けにした。スタッフ含め約40名が参加。

### 【活動の様子（写真など）】



## 取組③「鮭の冷燻製事業」

### 【活動内容】

鮭の冷燻製事業を事業継承し、今冬ようやく販売開始。地域の魚屋さんから仕入れを行い、地域の燻製所で作る。地域循環事業を自前で実施。ブランド名「極寒冷燻」

### 【成果や気づき】

NHKで取り上げられるなど広報も開始。しかし、販売は思ったようには伸びず、パッケージのサイズ用意や抱き合わせでの販売など

工夫をしながら試行錯誤していくことが必要。

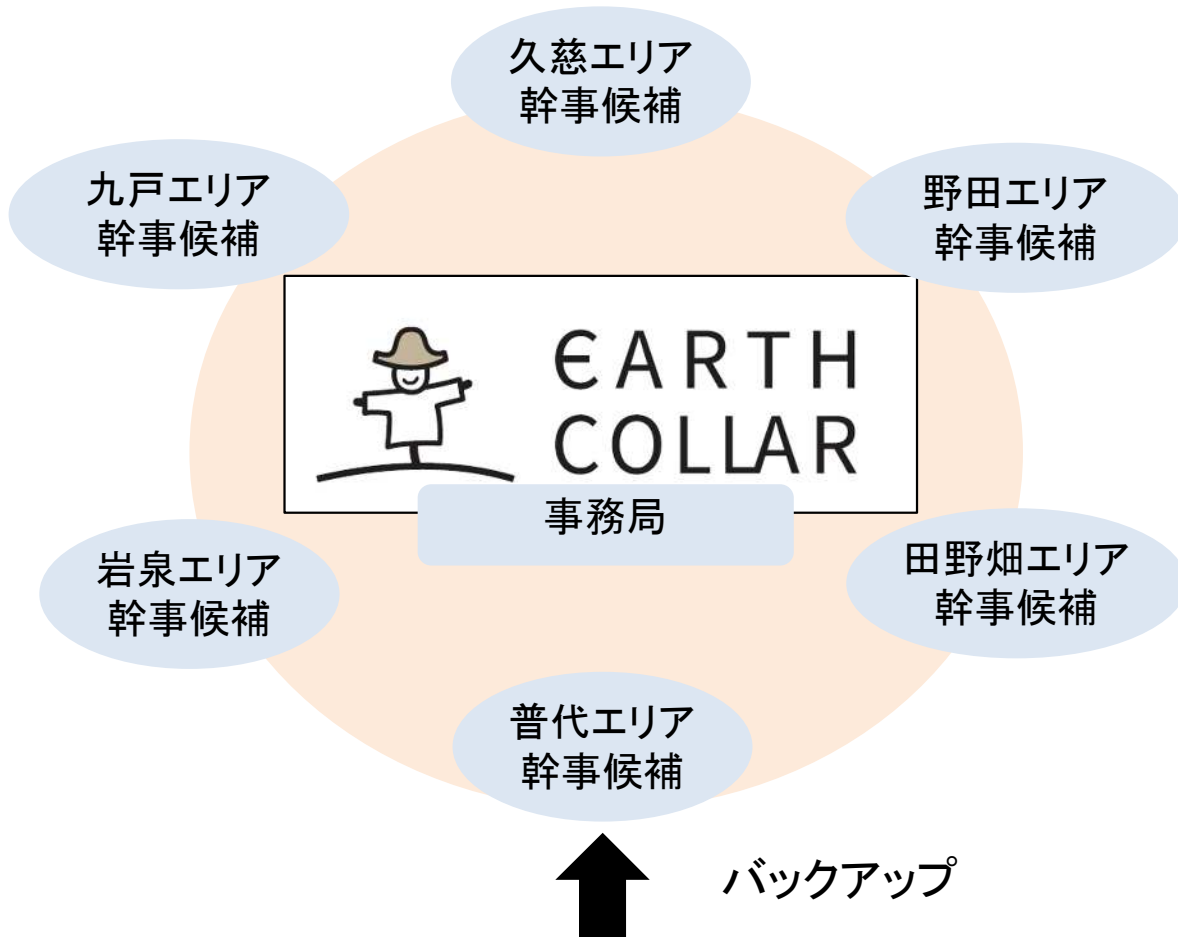
### 【活動の様子（写真など）】





# 現状の地域プラットフォームと取組を通じての変化

## 【現状の地域プラットフォーム】



北緯40度東端の地球村 / Fudai Village



- 学術研究者
- 地域銀行
- 県議会議員
- 基礎自治体議員

## 【地域プラットフォームの変化】

今年度は、地域通貨を研究している大学教授の方々、地方銀行の方々、地域電力小売り（地域エネルギー）の事業者さん、地方議員の方々なども新たに協力者として参画してくれた。

また、約50の事業者さんと接点を持ち、緩いつながりを形成することができた。

# プラットフォーム形成のポイント

- 地域の事業者さんたちは現場事業者を持っている方が多いため、忙しい。そういった方々を巻き込むためには、win-winのプランを考えなくては見向きもしてくれない。しかもそれが現実性があるものでなくてはならない。そのためには、事業者さんの事情など地域のネットワークや動機を深く理解しないといけない。

ビジョンと現実性、これらを包含した構想を作り、本気でやる姿勢が必要なので、プラットフォームを形成しようとする側は覚悟が問われると痛感。

# 取組を通しての成果と新たに見えてきた課題

## <成果>

★仲間が増えてきた！！ ステークホルダーミーティングに向けた準備と交流はとても効果あり。地域エネルギー会社さんや地域銀行さん、地域通貨の学術研究者さんなど必要な関係者が続々。



★ビジョンが具体アクションにまで落とし込めてきた！！

物販の開始、地球のしごと図鑑 x 地域通貨を実装したコミュニティシステムの開発。

## <ボトルネック・課題>

優先順位付けと各アクションの予算確保。

経済産業省、農林水産省、観光庁、休眠預金、民間資金などあらゆる手段を検討して予算が付いたものから構築を始める。事業者さんの商品を集めた物販定期便は自前で始められるので2024年度から実施したい。



# 活動における今後の展望

本事業は大変有意義でした。有難うございました。

この事業で作りに上げてきた構想は、ありがちな本事業のためだけのものではなく（形骸化することなく）、当社アースカラーグループは、マンダラを実現するためのプロデュースを事業領域としていきます。経営資源を見直し、マンダラ実現に100%注力していきます。

都市側

農山漁村側

岩手県北・沿岸エリア(旧南部藩) 地域循環経済圏



# 参考：アクションサイクル・モデル Ver 1.0

## 地域のビジョンを描く

- 地域の関係者の話を仲間と共有する
- ありたい未来と現状との差を把握する
- 地域の構造を可視化・言語化する
- 外部にありたい未来を発信し、反応を得る
- 

## 仲間を探す

- 地域にどんな関係者がいるかを調べる
- 関係者を訪問し、実際に話を聞いてみる
- 関係者と定期的に情報共有を行う
- 関係者に想いやメリットを伝え、参加の機会をつくる
- 

## 体制を整える

- プラットフォームの機能や取組などの全体像を整理する
- 事務局(マネジメント)機能を設ける
- 自治体の総合計画や政策との関わりをつくる
- 実務的な役割をプラットフォーム内外で分担する
- 

全ての項目は  
互いに関わり  
あっており、  
順不同

## 事業を生み出す

※主に「事業化支援」の段階で実施する項目

- 事業/事業計画に関する基礎的な情報を提供する
- 事業計画の内容を聞き、ともに考える
- 先進的な事業を学ぶ機会をつくる
- 事業の試行を支援する
- 

## 事業を考える

- 地域へのインパクト(効果・影響)を考える
- すでに地域にある既存の事業を整理する
- 事業の実施主体や支援者を探し、つながる
- 継続的に事業のタネが生まれる“仕組み”をつくる
-